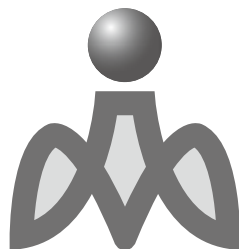


山 梨 県

商工会地区

# 中小企業景況調査報告書

〔平成29年7月～9月実績〕  
〔平成29年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会



# 目 次

I 調 査 要 領 .....	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観 .....	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	3
(2) 主な項目で見る業況 .....	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	6
(2) 主な項目で見る業況 .....	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	9
(2) 主な項目で見る業況 .....	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観 .....	12
(2) 主な項目で見る業況 .....	12



## 【I】 調 査 要 領

### 1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

### 2. 調査対象期間

第1四半期 平成 29年 7月～9月期 「調査時点：平成 29年 9月 1日」

### 3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

### 4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サ ー ビ ス 業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

### 5. そ の 他

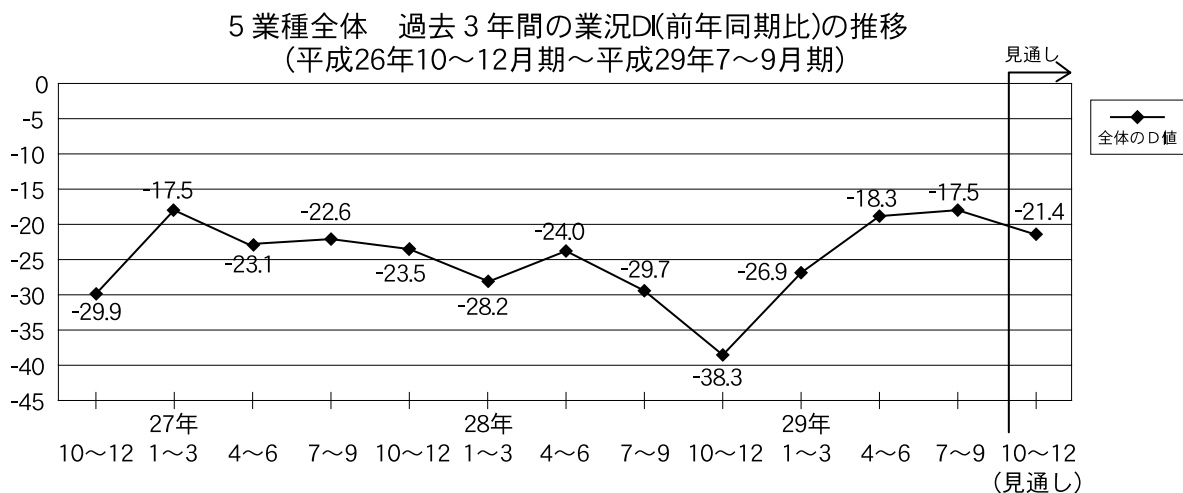
①本報告書のDIとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】 1. 産業全体の業況概観については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ286サンプルによるものである。

## 【Ⅱ】 景 況

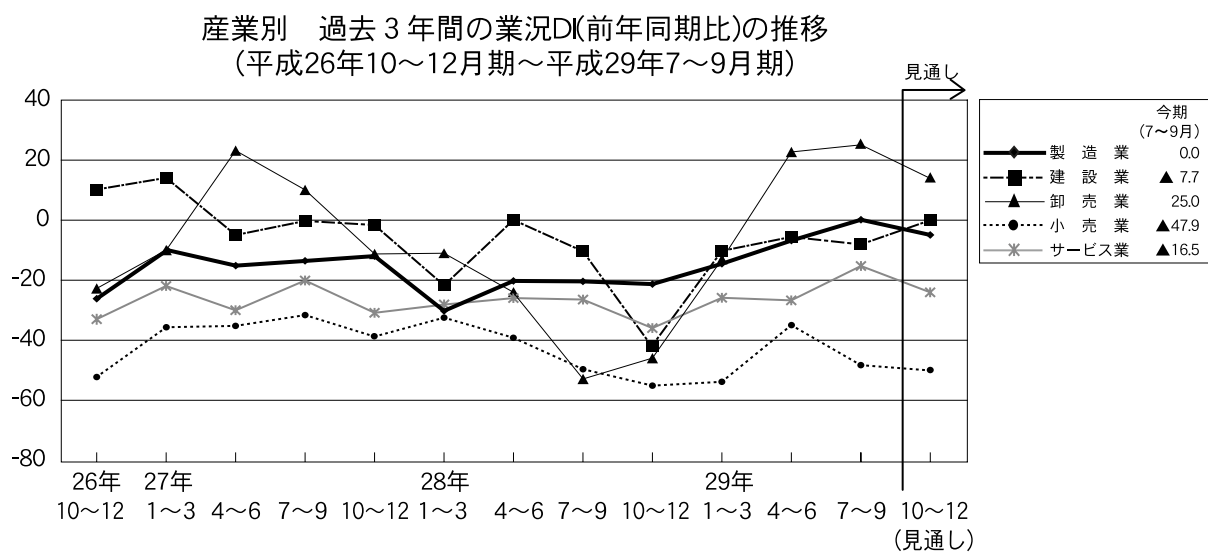
### 1. 産業全体の業況概観

今期の業況判断D Iは、▲17.5と前期比で0.8ポイント改善している。  
一方、来期については、▲21.4と悪化する見通しである。



今期の産業別の業況判断D Iは、製造業が0.0と前期比で6.5ポイント、卸売業が25.0と前期比で2.8ポイント、サービス業が▲16.5と前期比で10.3ポイント改善している。一方、建設業が▲7.7と前期比で2.6ポイント、小売業が▲47.9と前期比で13.6ポイント悪化している。

来期は、建設業を除いて悪化見通しである。



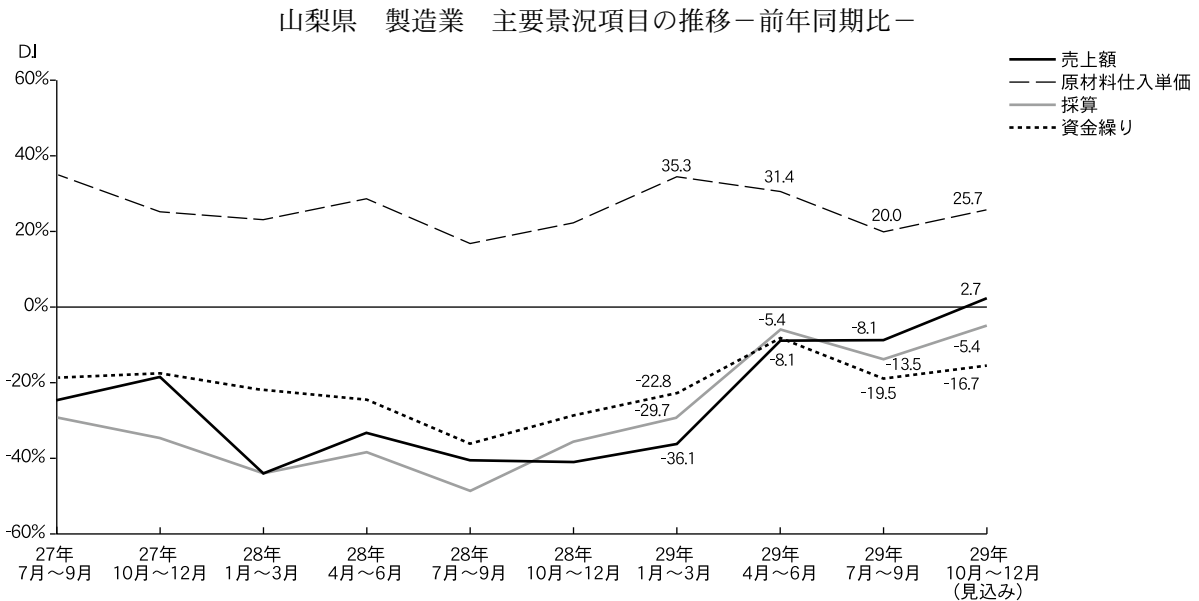
【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの121企業を含めた286サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

## 2. 製造業の動向

### (1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲8.1と前期比で横ばいとなっている。来期は2.7と改善する見通しである。原料仕入単価D Iは、今期は20.0と前期比で11.4ポイント低下（改善）している。一方、来期は25.7と上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲13.5と前期比で8.1ポイント悪化している。一方、来期は▲5.4と改善する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲19.5と前期比で11.4ポイント悪化している。一方、来期は▲16.7と改善する見通しである。

今期は、採算D I、資金繰りD Iが悪化している。一方、来期は、原料仕入単価D Iを除き改善する見通しである。

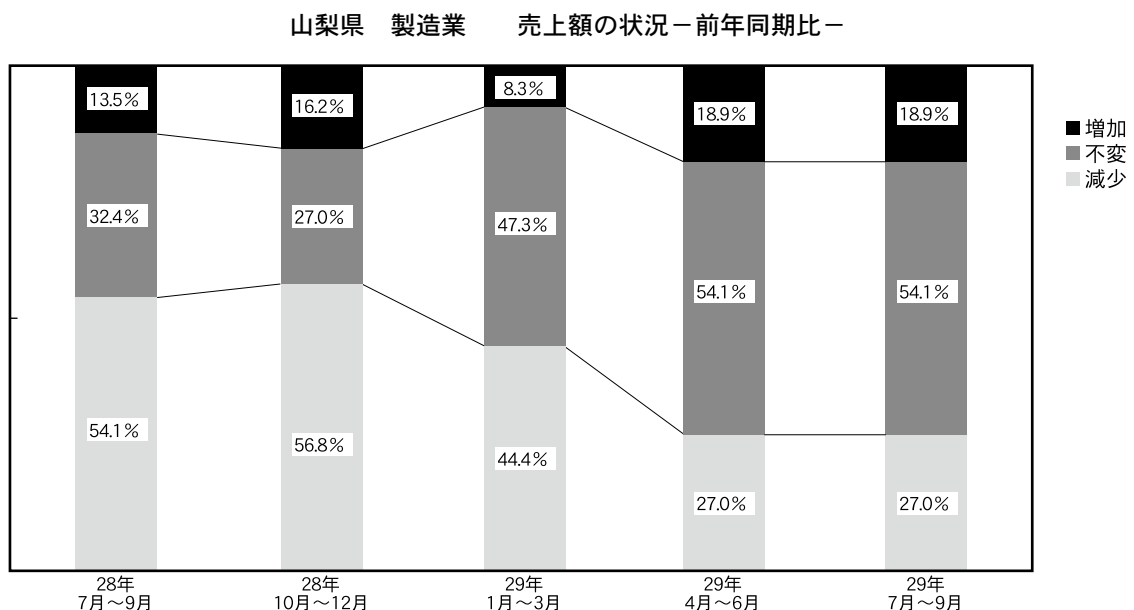


### (2) 主な項目で見る業況

#### ① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社）

「増加」と答えた企業の割合は、18.9%（7社）と横ばい（前期比±0社）。

「不変」は54.1%（20社）、「減少」も27.0%（10社）と横ばいとなっている（前期比±0社）。



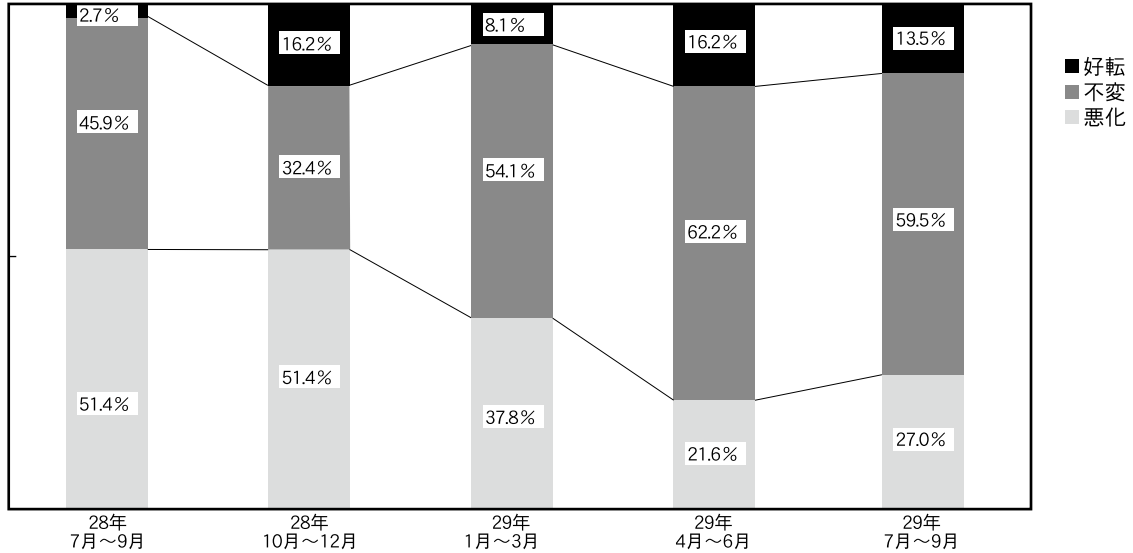
② 採算（採算D I の内容（回答企業数37社）

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、13.5%（5社）と減少している（前期比▲1社）。

「不変」は59.5%（22社）と減少（前期比▲1社）、「悪化」は27.0%（10社）と増加している（前期比+2社）。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

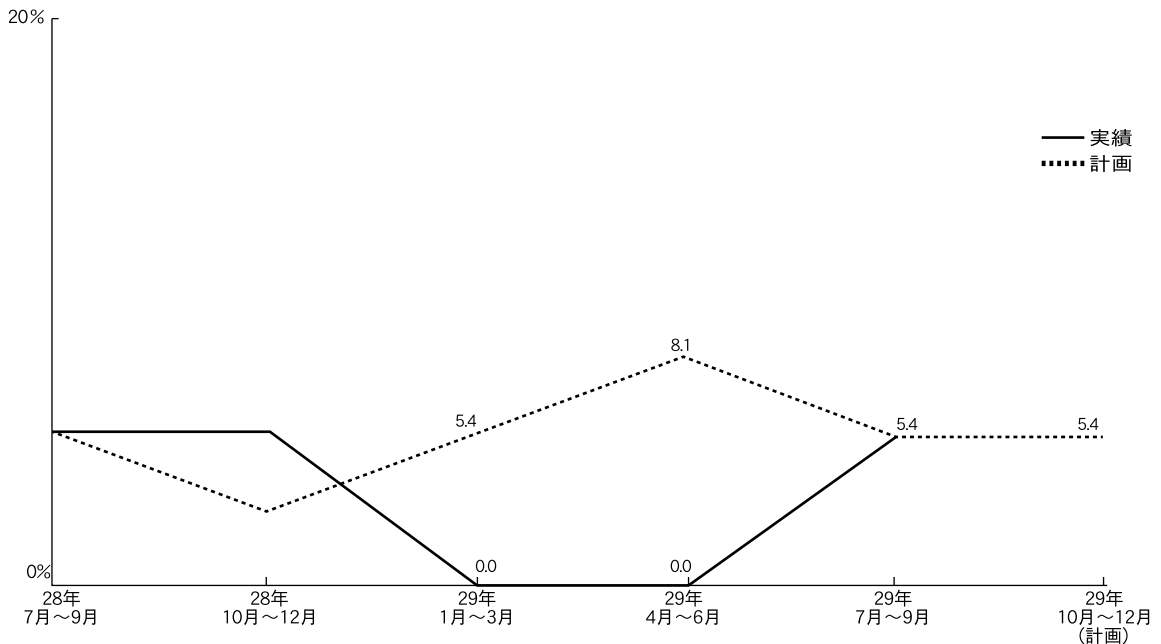


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は5.4%（2社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」、「車両・運搬具」が1件ずつになる。

来期の計画については、5.4%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「生産設備」、「車両・運搬具」が1件ずつになる。

山梨県 製造業 設備投資の状況





④ 経営上の問題点（回答企業数30社）

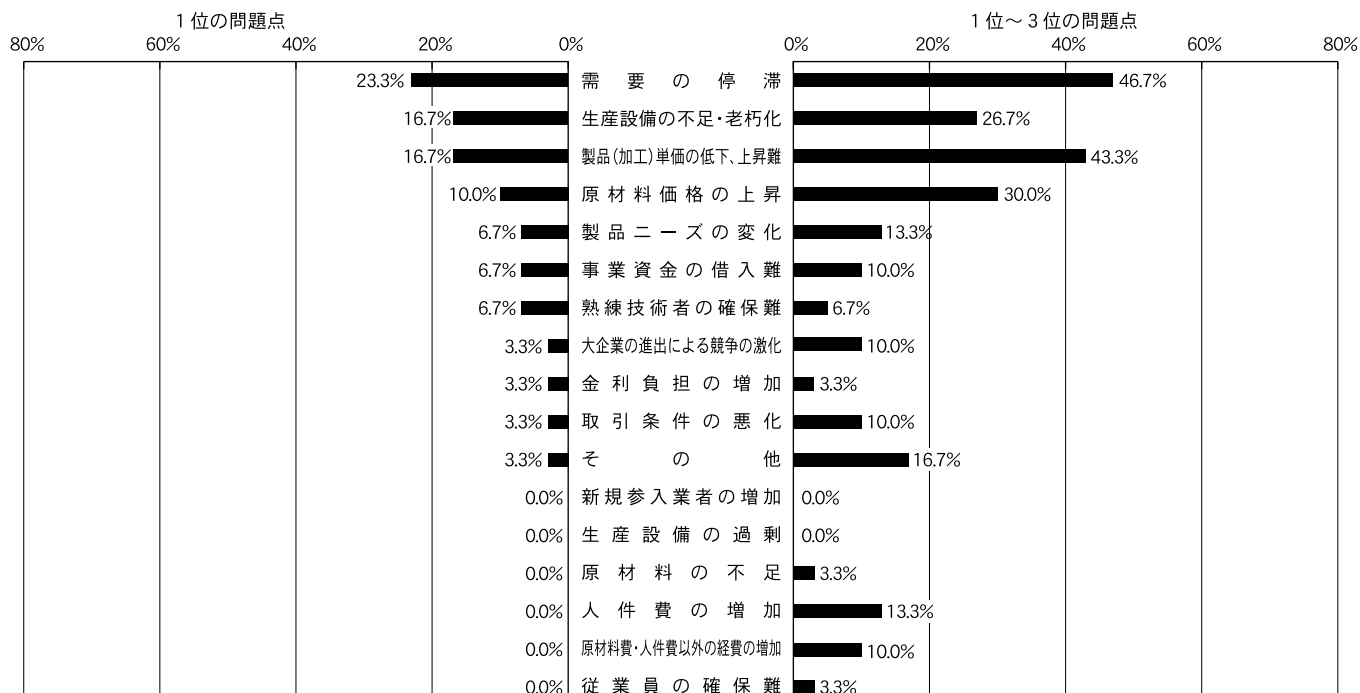
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の23.3%（7社）であり、2番目は、「生産設備の不足・老朽化」、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の16.7%（5社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の46.7%（14社）であり、2番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の43.3%（13社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	6	16.2
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
衣服・その他繊維製品製造業	0	0.0
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	2	5.4
一般機械器具製造業	12	32.4
電気機械器具製造業	2	5.4
輸送用機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	5	13.5
合計	37	100.0

従業員規模別

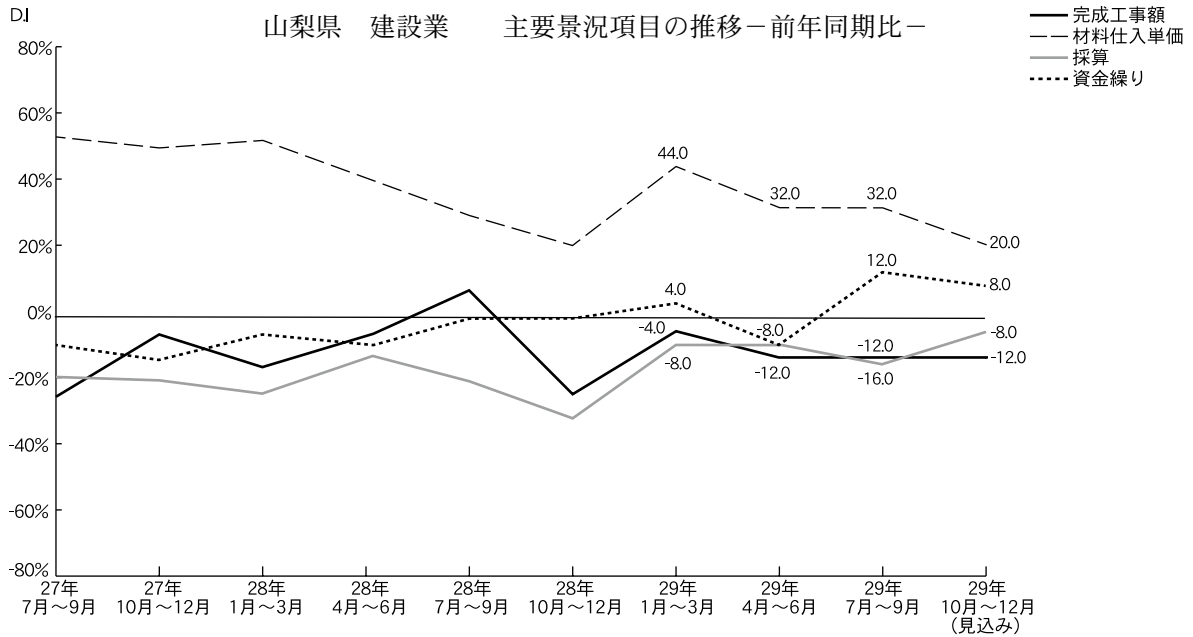
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	24	64.9	20	54.1
3人～5人以下	6	16.2	5	13.5
6人～10人以下	4	10.8	8	21.6
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

### 3. 建設業の動向

#### (1) 景況概観

完成工事額DIは、今期は▲12.0と前期比で横ばいとなっている。来期も▲12.0と横ばい見通しである。材料仕入単価DIは、今期は32.0と前期比で横ばいとなっている。来期は20.0と低下（改善）する見通しである。採算DIは、今期は▲16.0と前期比で▲8.0ポイント悪化している。一方、来期は▲8.0と改善する見通しである。資金繰りDIは、今期は12.0と20.0ポイント改善している。一方、来期は8.0と悪化する見通しである。

今期は、採算DIを除いて改善、あるいは、横ばいとなっている。来期は、資金繰りDIを除いて改善、あるいは、横ばい見通しである。

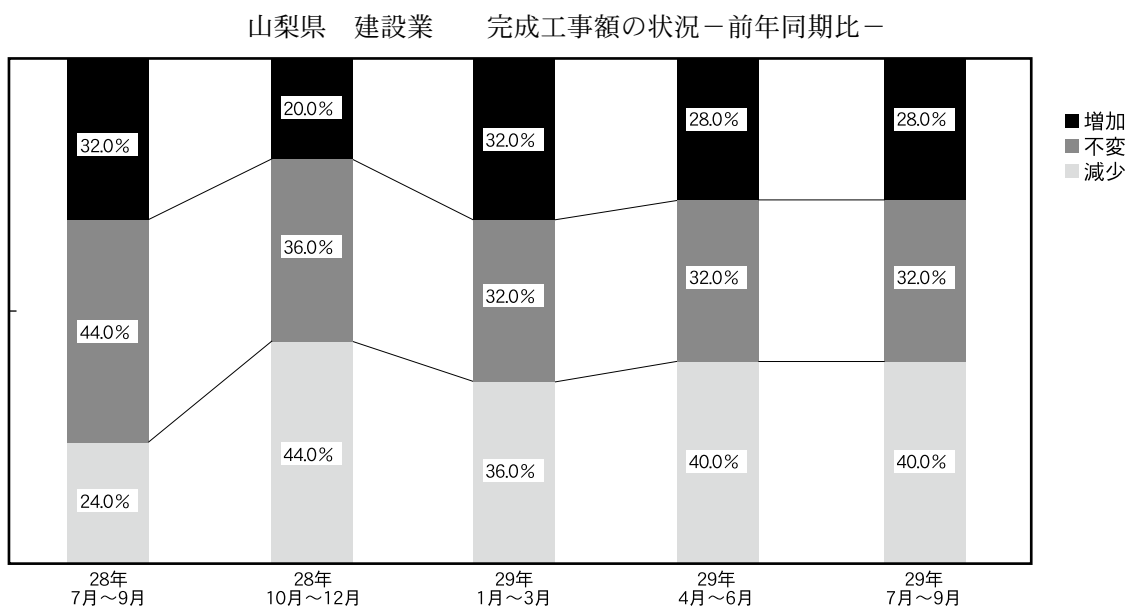


#### (2) 主な項目で見る業況

##### ① 完成工事額（完成工事額DIの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、28.0%（7社）と横ばい（前期比±0社）。

「不変」は32.0%（8社）、「減少」も40.0%（10社）と横ばいとなっている（前期比±0社）。

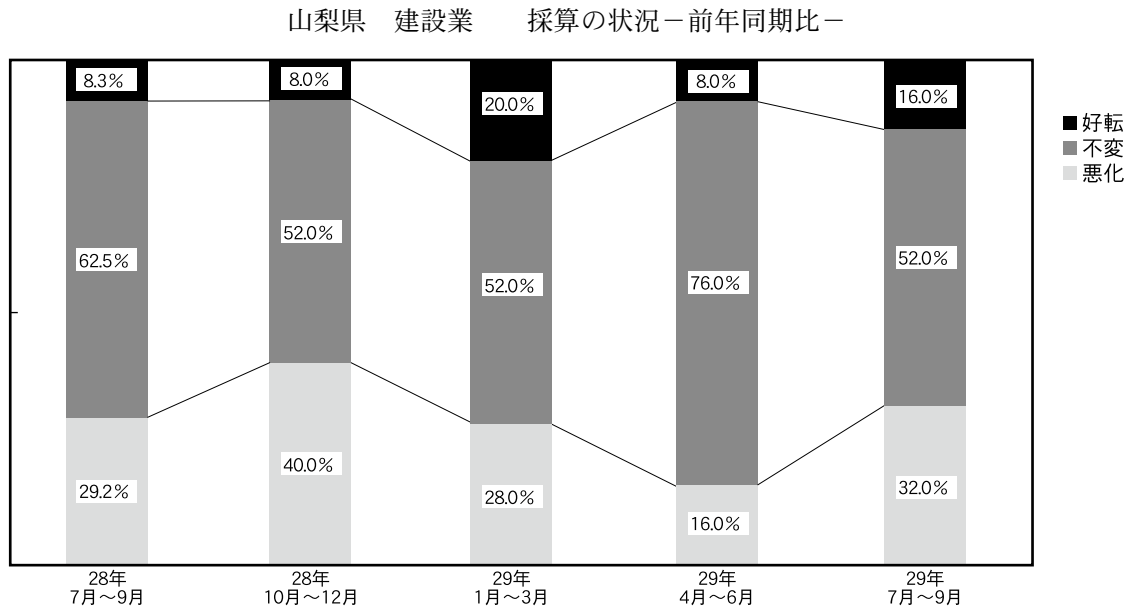


② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社）

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.0%（4社）と増加している（前期比+2社）。

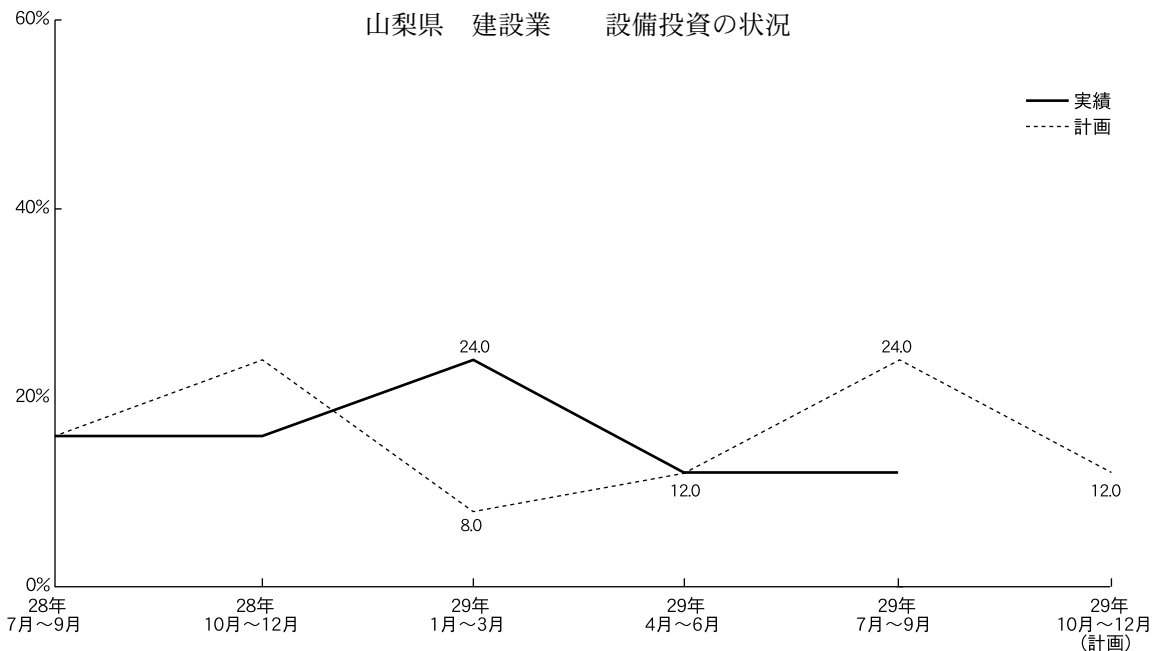
「不変」は52.0%（13社）と減少（前期比▲6社）、「悪化」は32.0%（8社）と増加している（前期比+4社）。



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は12.0%（3社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「土地」、「建物」、「建設機械」が1件ずつであった。

来期の計画については、12.0%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両運搬具」が2件、「OA機器」が1件になる。



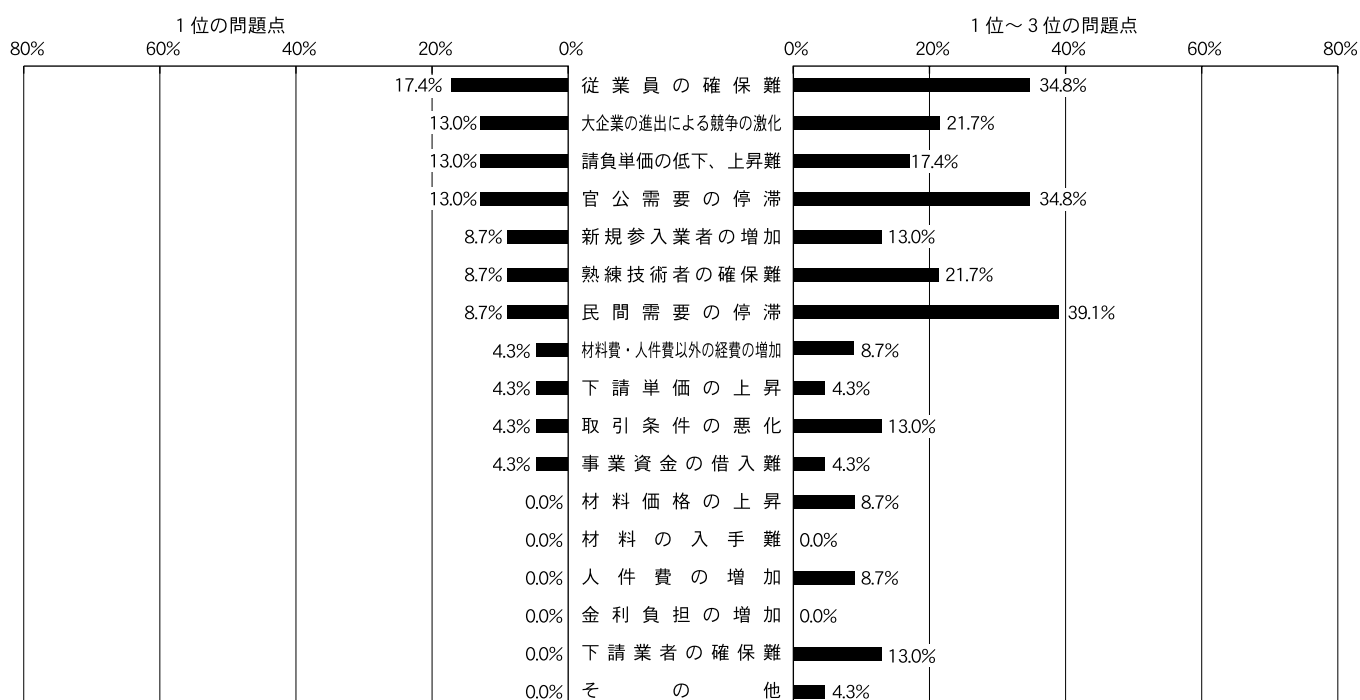
④ 経営上の問題点（回答企業数23社）

まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「従業員の確保難」の17.4%（4社）であり、2番目に多かったのは、「大企業の進出による競争の激化」、「請負単価の低下、上昇難」、「官公需要の停滞」の13.0%（3社）である。次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「民間需要の停滞」の39.1%（9社）であり、2番目に多かったのは、「従業員の確保難」、「官公需要の停滞」の34.8%（8社）である。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72.0
職別工事業	5	20.0
設備工事業	2	8.0
合計	25	100.0

従業員規模別

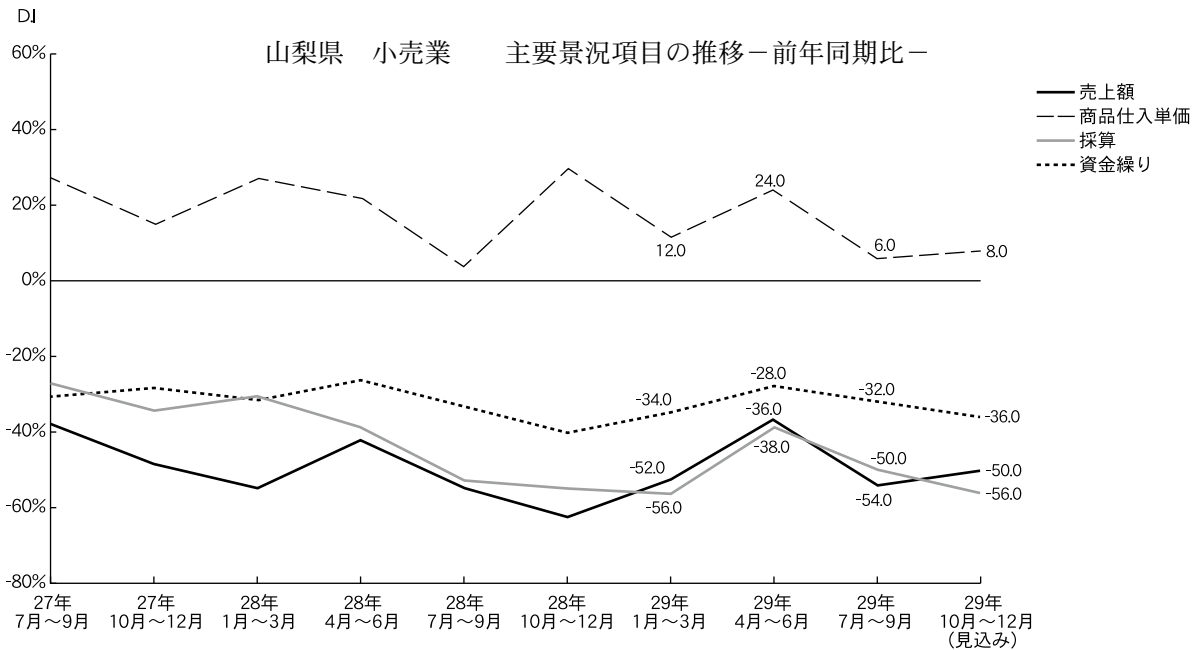
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	6	24.0	7	28.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100.0	25	100.0

## 4. 小売業の動向

### (1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲54.0と前期比で18.0ポイント悪化している。一方、来期は▲50.0と改善する見通しである。商品仕入単価D Iは、今期は6.0と前期比で18.0ポイント低下（改善）している。一方、来期は8.0と上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲50.0と前期比で12.0ポイント悪化している。来期は▲56.0と更に悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲32.0と前期比で4.0ポイント悪化している。来期は▲36.0と更に悪化する見通しである。

今期は、商品仕入単価D Iを除いて悪化している。来期は、売上額D Iを除いて悪化する見通しである。

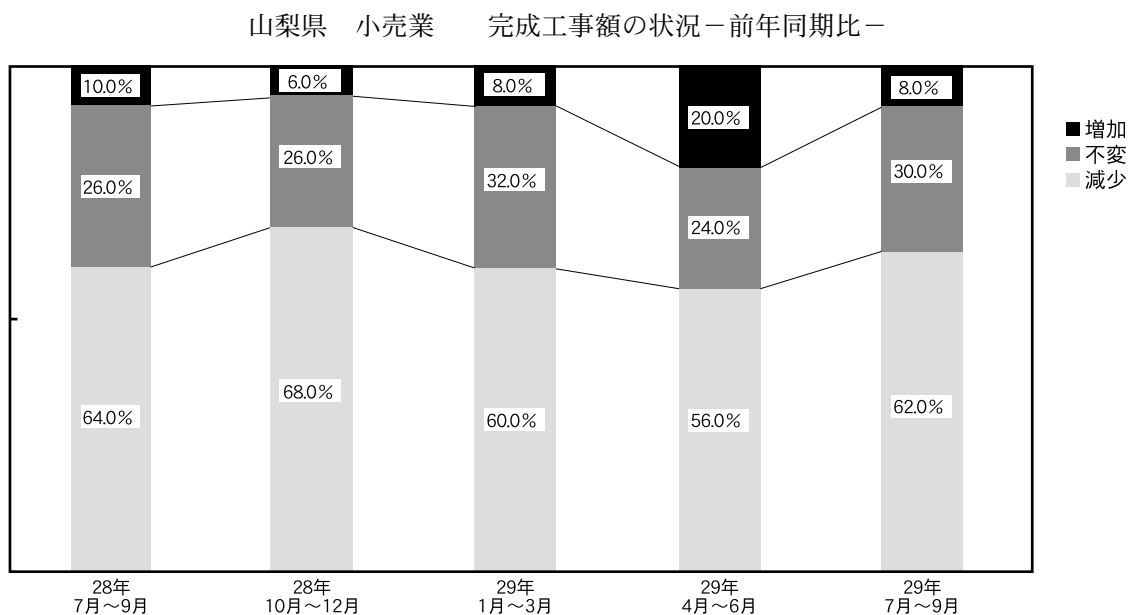


### (2) 主な項目で見る業況

#### ① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社））

「増加」と答えた企業の割合は、8.0%（4社）と減少している（前期比▲6社）。

「不変」は30.0%（15社）と増加（前期比+3社）、「減少」は62.0%（31社）と増加している（前期比+3社）。



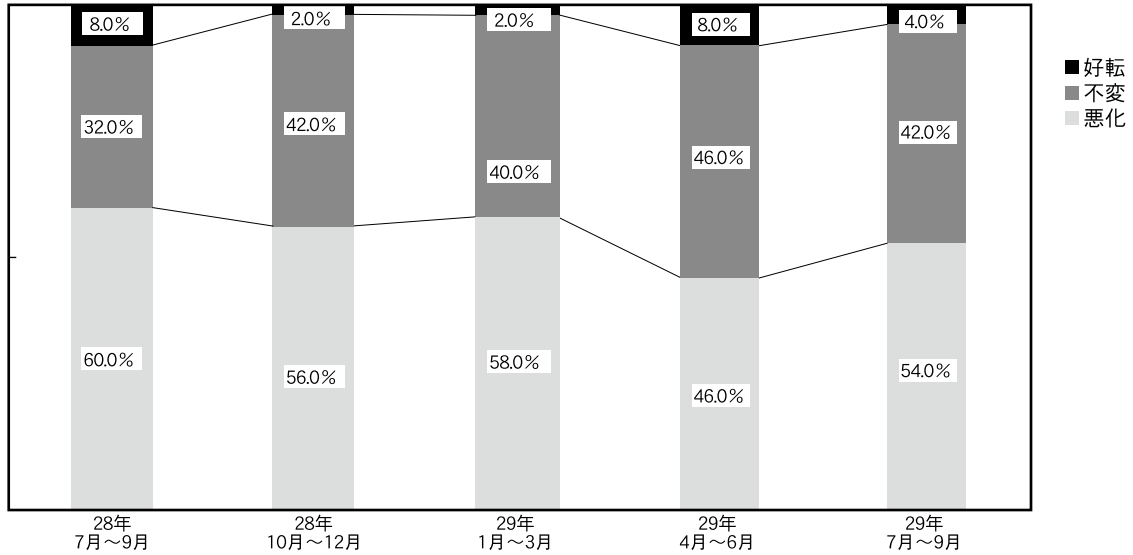
② 採算（採算D Iの内容（回答企業数50社）

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、4.0%（2社）と減少している（前期比▲2社）。

「不変」は42.0%（21社）と減少し（前期比▲2社）、「悪化」は、54.0%（27社）と増加している（前期比+4社）。

山梨県 小売業 採算の状況—前年同期比—

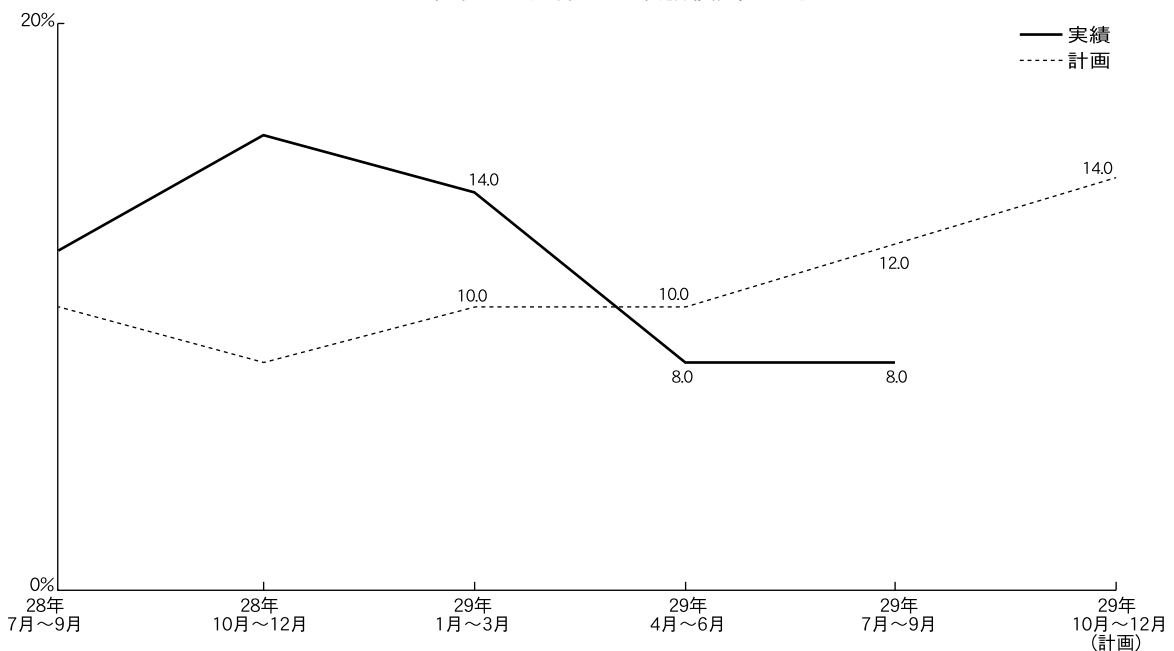


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.0%（4社）であった。その設備投資の内容は、「その他」が2件、「車両・運搬具」、「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、14.0%（7社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両運搬具」、「付帯施設」、「その他」が2件ずつ、「店舗」が1件になる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数47社）

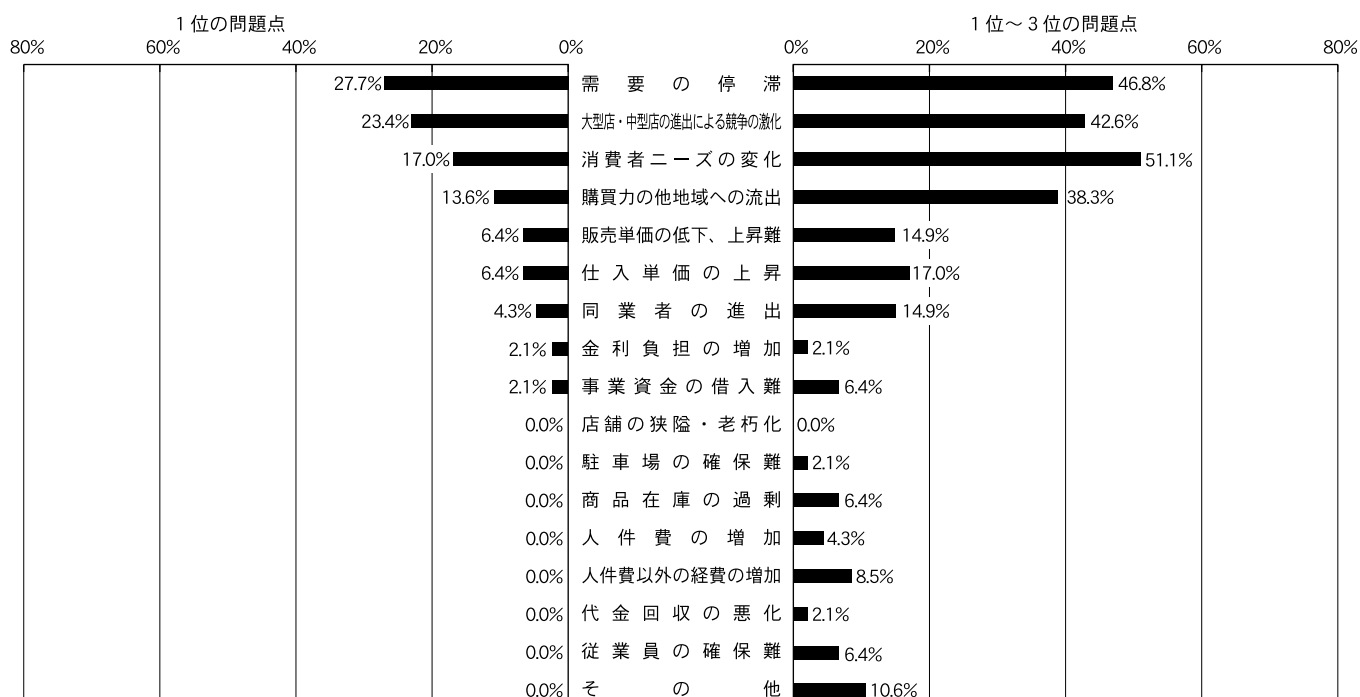
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の27.7%（13社）であり、2番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の23.4%（11社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「消費者ニーズの変化」の51.1%（24社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の46.8%（22社）である。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	24.0
飲食品小売業	16	32.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	16	32.0
合計	50	100.0

従業員規模別

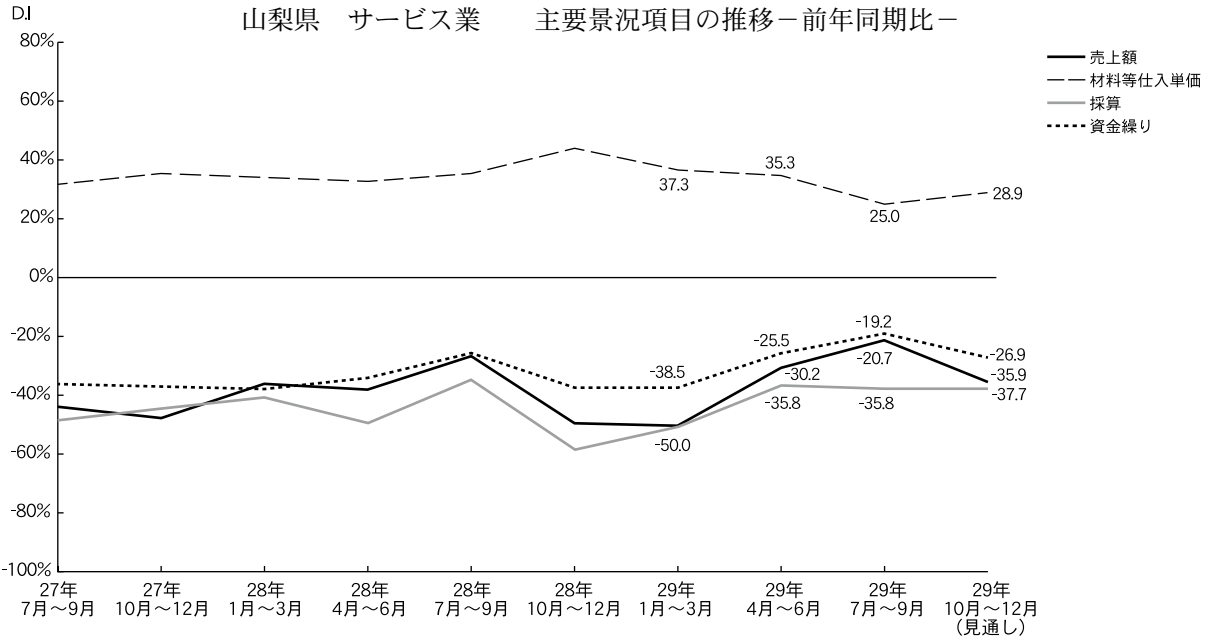
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	45	90.0	39	78.0
3人～5人以下	5	10.0	11	22.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

## 5. サービス業の動向

### (1) 景況概観

売上額D Iは、今期は▲20.7と前期比で9.5ポイント改善している。一方、来期は▲35.9と悪化する見通しである。材料仕入単価D Iは、今期は25.0と前期比で10.3ポイント低下（改善）している。一方、来期は28.9と上昇（悪化）する見通しである。採算D Iは、今期は▲35.8と前期比で横ばいとなっている。来期は▲37.7と悪化する見通しである。資金繰りD Iは、今期は▲19.2と前期比で6.3ポイント改善している。一方、来期は▲26.9と悪化する見通しである。

今期は、全てのD Iが改善、あるいは、横ばいとなっている。一方、来期は、全てのD Iが悪化する見通しである。

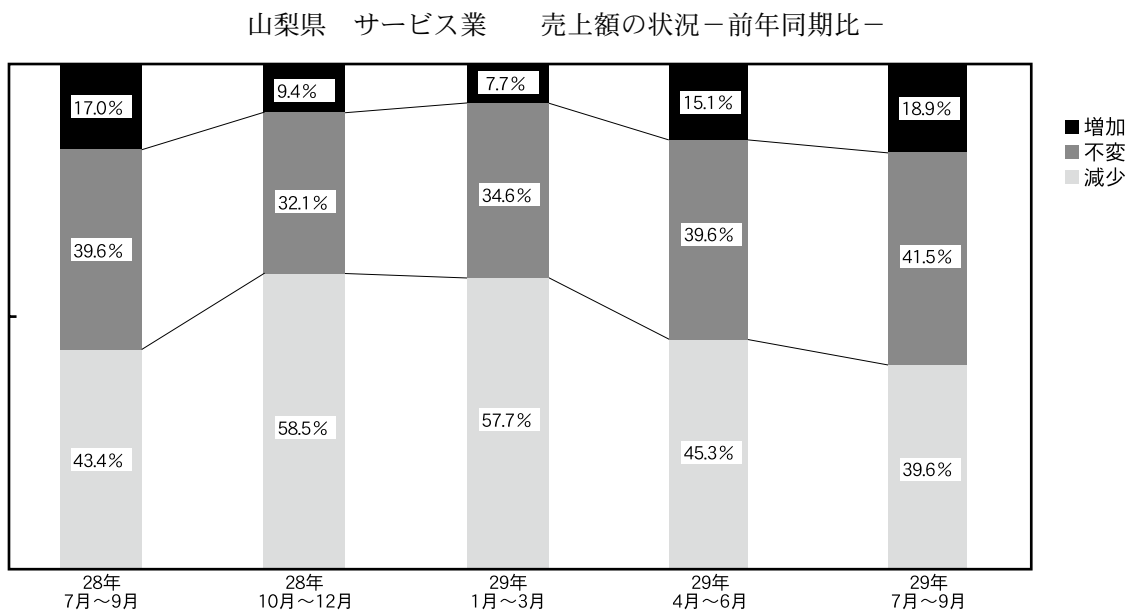


### (2) 主な項目で見る業況

#### ① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社）

「増加」と答えた企業の割合は、18.9%（10社）と増加している（前期比+2社）。

「不変」は41.5%（22社）と増加（前期比+1社）、「減少」は39.6%（21社）と減少している（前期比▲3社）。



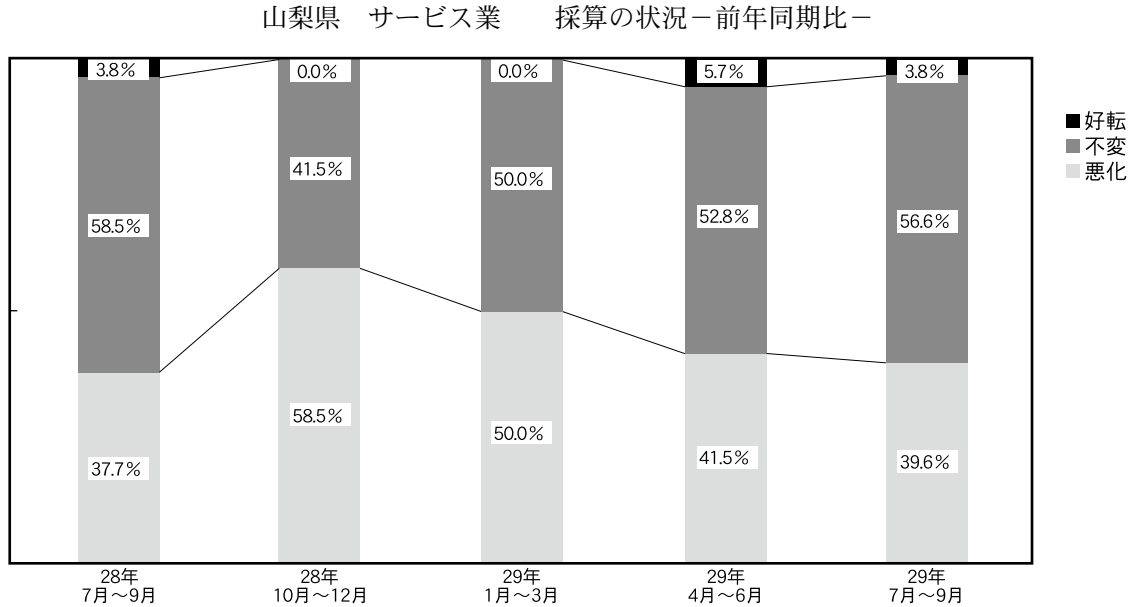


② 採算（採算D I の内容（回答企業数53社）

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、3.8%（2社）と減少している（前期比▲1社）。

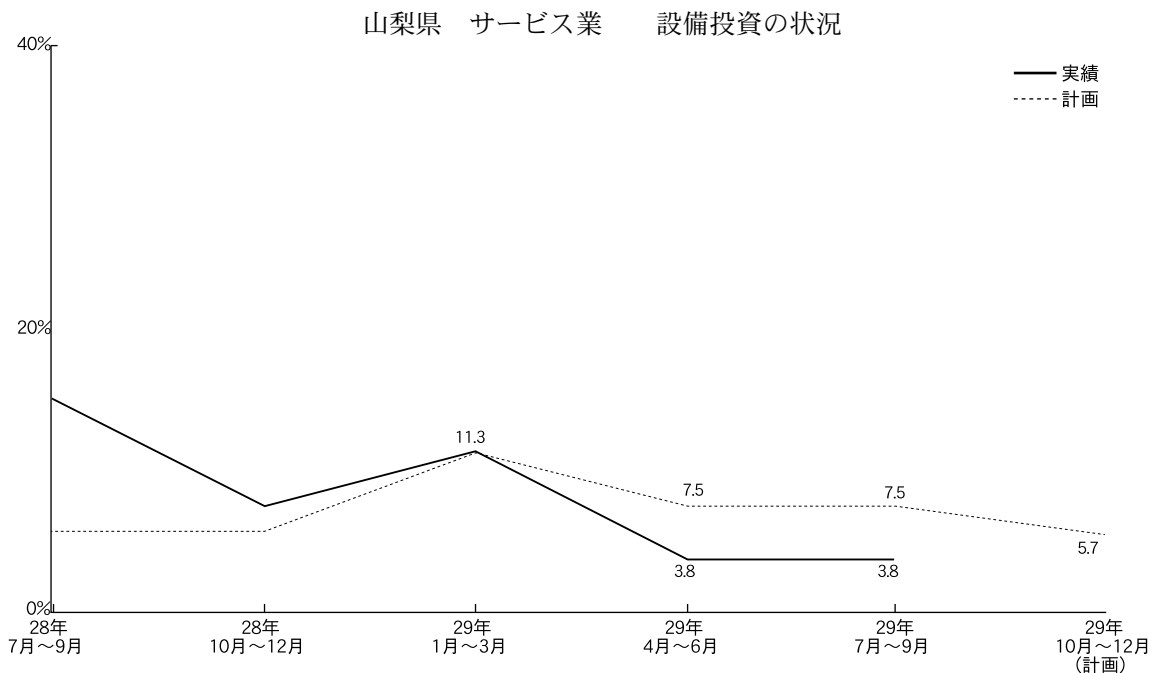
「不変」は56.6%（30社）と増加し（前期比+2社）、「悪化」は39.6%（21社）と減少している（前期比▲1社）。



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は3.8%（2社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」が2件、「車両・運搬具」が1件であった。

来期の計画については、5.7%（3社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「サービス」、「付帯施設」が1件になる。



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

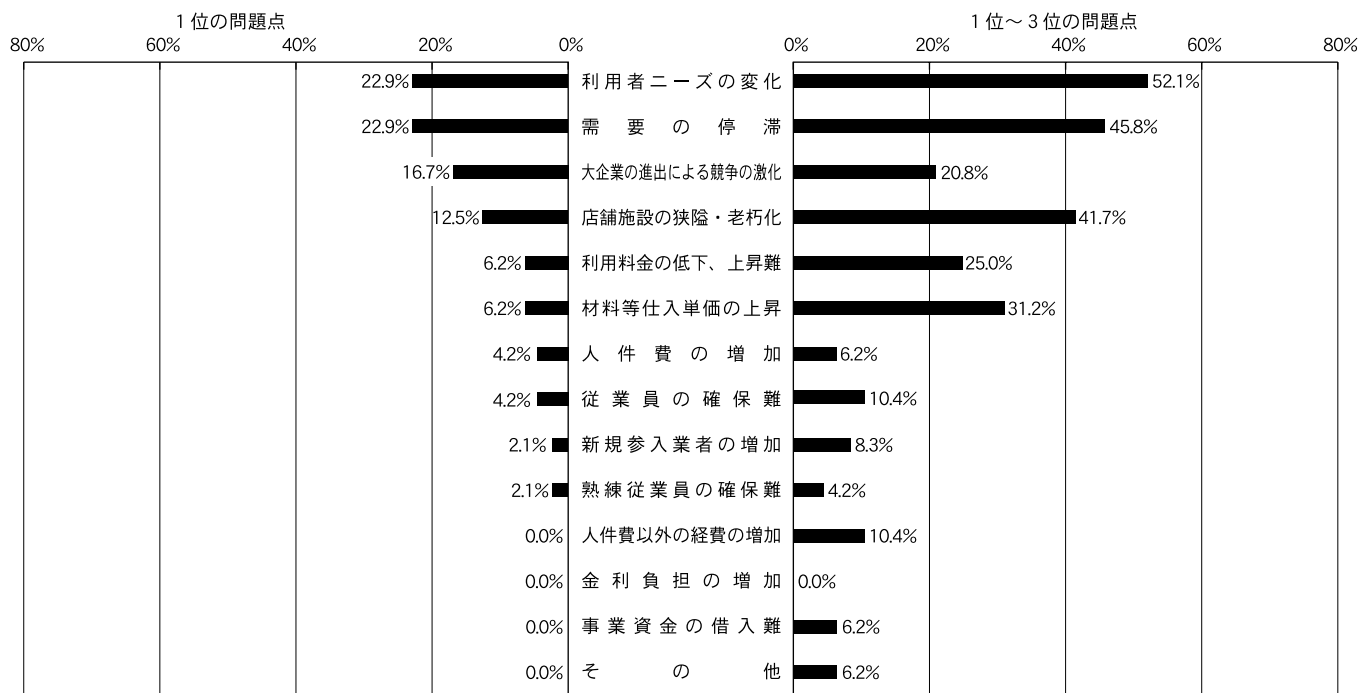
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」、「需要の停滞」の22.9%（11社）であり、2番目に多かったのは、「大企業の進出による競争の激化」の16.7%（8社）である。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の52.1%（25社）であり、2番目に多かったのは、「需要の停滞」の45.8%（22社）である。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	2	3.8
自動車整備業	3	5.7
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(%)	構成比(%)	企業数(%)	構成比(%)
2人以下	46	86.8	42	79.2
3人～5人以下	7	13.2	11	20.8
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0